

ロテストとの間には、ほとんど差がなく、高い相関を示すという結論を得た。

6. 血中サイロキシシン (T₄) RIA Kit の基礎的検討

○岩崎 宏司 計屋 慧実
木下 博史 本保善一郎
(長大・中放)
前田 蓮十 森本 勲夫
(同・一内)

血中 T₄ は、competitive protein binding assay (CPBA 法) で測定してきた。しかし CPBA 法は使用する血清量が多く、T₄ を抽出する必要があった。今回われわれは、血清量が少なく、さらに操作が簡単で多検体処理可能な NML 社製 T₄ Radioimmunoassay キットの基礎的検討ならびに、他社キットとの比較検討をした。本法の感度、精度および再現性をけみした結果、(1) water blank, plasma blank は測定感度以下、(2) Inter assay は $8.08 \pm 0.43 \mu\text{g/dl}$ と intra assay では $8.10 \pm 0.24 \mu\text{g/dl}$ 、(3) T₄ の添加実験は、相関関係 $y = 0.99x + 0.47$ ($r = 0.95$)、(4) 本法と他社キットを比較しても、大差はない。以上本法は、使用血清量も $10 \mu\text{l}$ 非常に微量であり、感度、精度および再現性も良好で、他社キットと比較しても良好な相関関係が得られ、ルーチン検査として、十分使用できるとの結果を得たので、報告した。

7. Tetra Tab RIA の使用経験

○吉井 弘文 広田 嘉久
藤村 憲治 土亀 直俊
矢野 恵補 仏坂 博正
片山 健志
(熊本・放)

Tetra Tab RIA による T₄ 測定のために、二、三の基礎的検討をおこなった。用いた Sample は T₄ 濃度の異なる pool 血清で、各検体ごとに三重 assay をおこなった。

再現性について、CV をみると 3.4~7.4% で比較的良好であった。回収率は、85.9~103.0% であった。溶血血清は、いく分低値を示した。

Incubate 温度について 15.24°C で標準曲線、Sample とともにほとんど一致し、5.30°C では高濃度域で低値を示したが、測定値は少差であった。

Incubate 時間について 30~90 分でほとんど一致し、120 分で標準曲線がゆるやかになる傾向を示したが、測定値は、ほとんど一致した。

Thyopac 4 との相関 $r = 0.95$, T₄ RIAPAC とでは $r = 0.98$ で、わずかに Tetra Tab RIA が高値を示した。

8. ²⁰¹Tl-chloride による甲状腺シンチグラフィーの臨床経験

○塩川 祐幸 前田 辰夫
江口 実美
(九州ガンセンター)

²⁰¹Tl は心筋スキャン剤として開発された薬剤であるが、最近、腫瘍にも集積するといわれており、特に甲状腺腫瘍に好成績が得られたとの報告がある。私どもも甲状腺疾患患者 15 例について検討を行なった。²⁰¹Tl の集積に関する成績は、悪性甲状腺腫については 8 例中 6 例に、良性については 7 例中 4 例に異常集積が見られた。つまり頻度では両者間に大差は見られなかった。したがって異常集積の有無で良性和悪性の鑑別はできないといえる。しかし、悪性甲状腺腫 8 例中 4 例に、頸部リンパ節および胸腔内の転移巣と思われる部位に異常集積が認められた。結論として、²⁰¹Tl は骨および骨髄への集積がほとんどないという利点も加わって、頸部ないし縦隔部の転移巣の検索に役立つのではないかと考えられる。